

文献探索へのガイド

参考掛

参考事務

付属図書館の正面階段を昇って右へ曲ると参考室がある。ここには各種事典、辞書、便覧、文献目録、出版目録、索引、年鑑、地図、統計書、法規類など、和洋約3,000冊の参考図書を自由に利用できるよう排架してある。

参考掛は、これらの図書の利用案内、指導は勿論、利用者に知識と情報を提供する図書群が、要求に応じて最も有効に活用できるよう案内する係である。

しかし現在の段階では、雑誌や資料の購入、受贈、交換などの業務におわれ、図書館本来の使命であるレファレンス・サービスを積極的に十分行なうことができないのが、この掛の最も大きな悩みとなっている。

次に実際行なっているサービスについて述べてみよう。

研究者、学生、職員をはじめ、国内各地から寄せられる文書又は口頭による文献、資料の調査をはじめ、日によっては何回となくかかってくる電話による質問に応じるなど、広汎な要求に対して合理的なレファレンス・サービスを行なわなければならない。そのために係員は日々たゆまぬ知識の修得を要求されている。書誌的資料（レファレンス・ツールズ）を駆使して的確な指示をするためには、緻密さは勿論、時間と労力を惜しまぬ資料探索への熱意が要求される。

館内におけるレファレンス・サービスの外に、自館にない資料を他の館から借りて、閲覧者の便宜をはかる相互貸借も、国会図書館及び旧七帝大の図書館との間に行なわれている。僅かの郵送料で利用できるこの制度は、利用者には喜ばれているが、係員の手数は大きい。

又米、英、中国、ソ連をはじめ諸外国から依頼される文献の調査や、学術資料の交換などに対しては、学内各部局との緊密な連繫により、現在42か国、285機関と定期的な図書交換を行なっており、諸外国との文化交流の一役をこなしている。

以上の他に参考掛にはもう一つ重要な仕事として、年数回催される展示会がある。この展示会一つを取り上げて、開催の主旨によって、適切な展示資料を選定し、正確な解説を書き上げるために、あらゆる分野における資料に対する知識を必要とするので非常に責任の重い係である。

複写業務

地階にある文献複写室も参考掛として重要な奉仕を行なっている。研究者の依頼により、学術資料を複写するのが主な仕事である。奉仕対象は学内および国内各地、それに外国におよんでいる。最近では資料の複写を外国へ依頼する研究者もふえ事務が繁雑になってきた。需要がますますつれ能率的な処理が必要となる。しかし、中には申込記入が不充分のため係員が資料の調査に思わぬ時間をとられ、又必要な図書が貸出中のため撮影がおくれるなど、余分の労力と時間を費す場合がある。複写ができ上って利用者の手に渡るまでには種々の段階を経るため、いろいろの支障をきたすこともあるが、正確な資料を迅速に渡せるよう努力している。（文献複写室の利用案内については“静脩”創刊号に掲載）

あとがき

▶さきごろ、医学部図書館の竣工式が関係者の祝福のうちに済ませられ、いよいよ今秋、開館の予定で目下諸準備が進められている。この機会に、本号では最近できた三つの図書館に焦点を合せ、新図書館の息吹きとでもいったものを追ってみた。限

られた紙面、編集子の力不足から外観を素描するにとどまり、部局図書室のもっているいくつかの問題点を新館ではどのように解決し、対処されようとしているのか、といったことについて十分ふれることができなかつた。心残りではあるがまたの機会にゆずりたい。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 2, No. 2 (通巻6号) 1965年7月20日発行・発行人 岩猿敏生
発行所 京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表77-8111(内線)150-159